

ASKの飲酒運転対策 主な活動

2005年7月 飲酒運転対策特別委員会(委員長・山村陽一)を設置

■要望・提言

飲酒運転の背景にある多量飲酒や依存症に介入する必要性を、ASKが事務局を務める日本アルコール問題連絡協議会を通して提言。06年からは日本アルコール関連問題学会、08年からは日本アルコール精神医学会も合同で行なった。その流れの中で内閣府・警察庁・国交省・法務省・厚生労働省・経産省による「常習飲酒運転対策推進会議」が設置され、対策が打ち出された。→<http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/inshu-suisin.html>

- ・〈交通運輸機関における飲酒運転を防ぐため、総合的なアルコール対策を求める要望書〉を、国土交通大臣・厚生労働大臣に提出(2002) <http://www.ask.or.jp/ask020830.html>
- ・〈運行管理者等の指導講習に「アルコール問題」を組み込むことを求める要望書〉を自動車事故対策センターに提出(2002) <http://www.ask.or.jp/ask021128.html>
- ・〈バス運転者の飲酒運転を防ぐ総合的なアルコール対策を求める要望書〉をJRバス関東株式会社・日本バス協会・国土交通大臣宛に提出(2003) <http://www.ask.or.jp/ask030822.html>
- ・〈飲酒運転の背景にある「飲酒問題」への介入に関する要望書〉を、総理大臣・警察庁長官・法務大臣・厚生労働大臣に提出(2006) <http://www.ask.or.jp/ask061026.html>
- ・〈飲酒運転 留置中の急死を防ぐための緊急要望書〉を警察庁長官・法務大臣に提出(2007) <http://www.ask.or.jp/ask070219.html>
- ・〈飲酒運転の背景にある「多量飲酒」と「アルコール依存症」への介入に関する要望書〉を、厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣に提出(2008) <http://www.ask.or.jp/ask080110.html>
- ・〈教職員の飲酒運転の背景にある多量飲酒・アルコール依存症への介入に関する要望書〉を文部科学省に提出(2008) <http://www.ask.or.jp/ask081205.html>

■海外視察

違反者向け教育プログラムを実施している2国を視察、資料を添えて国に提言した。マスコミにも情報提供。

- ・ アメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルス市の視察(2006) http://www.ask.or.jp/ddd_california.html
- ・ オーストラリア・ニューサウスウェルズ州シドニーを視察(2007) http://www.ask.or.jp/ddd_sydney.html

■調査・分析

飲酒運転の背景に多量飲酒や依存症、アルコールへの認識不足があることを、生の声や事例を通して社会に伝えるため、断酒会へのアンケート調査やYahoo/Google ニュースに掲載された事例の分析を実施。

- ・ <断酒会アンケート>アルコール依存症と飲酒運転(2006) http://www.ask.or.jp/ddd_enquete.html
- ・ 飲酒運転 懲戒処分事例の分析 07・4・10(2008) http://www.ask.or.jp/ddd_case1.html
- ・ 飲酒運転 運転代行の落とし穴 06・9～08・4(2008) http://www.ask.or.jp/ddd_case2.html
- ・ 教職員の飲酒運転 懲戒処分事例の分析 07・10～08・9(2008) http://www.ask.or.jp/ddd_case3.html

■予防教育・広報活動

飲酒運転防止を切り口に、アルコールの基礎知識、依存症の兆候・職場からの介入を教えるプログラムと教材を製作。インストラクター養成講座は、バス会社で効果をあげたセルフケアスクールをもとにした通信スクール・DVD・スクーリングで構成、職場・地域で予防教育ができる人材を3年で全国に1000人養成する計画。

- ・ サイト「飲酒運転防止のページ」(2000～) <http://www.ask.or.jp/dontdrivedrunk.html>
- ・ アメリカで飲酒運転検挙され帰国した日本人への教育プログラム[DUIプログラム](2004～)
- ・ 「職場の飲酒運転対策メルマガ」(2005～) バックナンバー<http://dontdrivedrunk.blog74.fc2.com/>
- ・ バス会社から委託を受けた運転手向け[セルフケアスクール](2005～) http://www.ask.or.jp/ddd_driveryobo.html
- ・ 日本損害保険協会「飲酒運転防止マニュアル」執筆協力(2005) <http://www.sonpo.or.jp/archive/publish/traffic/0003.html>
- ・ 新しい視点での飲酒運転防止[管理者研修](2006～) http://www.ask.or.jp/ddd_kanri.html#1
- ・ [飲酒運転防止(通信スクール)管理者コース](2006～) http://www.ask.or.jp/ddd_inst_tsushinschool.html
- ・ 研修用DVD「知って得する!アルコールの基礎知識」(2008～) http://www.ask.or.jp/ddd_dvd.html
- ・ [飲酒運転防止インストラクター養成講座](2008～) http://www.ask.or.jp/ddd_instructor.html

助成:日本損害保険協会/協賛:内閣府・警察庁・国土交通省・厚生労働省、交通運輸関連7団体

飲酒運転防止インストラクター養成事業について

特定非営利活動法人ASK(アルコール問題全国市民協会)

代表 今成 知美

■なぜ、今、インストラクター養成なのか？

飲酒運転によって懲戒処分される人々が後を絶ちません。厳しい世論を受けて、アルコール検知器を導入する職場が増えていますが、きちんと運用しているところほど、検知器に反応して乗務できない従業員が続出するという矛盾に陥っています。

その多くが、前夜の深酒による二日酔い運転、アルコールの処理時間など知識不足、依存症とその予備群など、「教育」や「飲酒習慣の見直し」が必須なケースです。検知器導入にあたっては、同時に、アルコールの基本的知識を研修し、勤務前には酒気が完全に抜ける飲み方を知らせる必要があるのです。

日本に860万人いるといわれる多量飲酒者(1日平均純アルコール60g以上)。飲酒運転がこの多量飲酒と深い関わりがあることは、調査によっても示されています。

今、必要な飲酒運転防止対策は、職場や地域での「アルコール教育」なのです。

■通信講座とスクーリング、DVDを組み合わせて

ASKでは2005年以降、運輸会社などでプロドライバー向けの予防講座「セルフケアスクール」を実施してきました。その経験をもとに作成した「飲酒運転防止通信スクール【管理者コース】」と「研修用DVD」を使い、08年4月、日本損害保険協会(自賠償保険運用益拠出事業)の助成を受けて、インストラクター養成講座を開始しました。3年間で日本全国の職場や地域に、まずは1000人の「認定インストラクター」を養成する計画です。自己負担1万円で認定までの講座を受講でき、研修用DVDと活用マニュアルも無料で入手できます。スクーリングは全国10地区で開催します。

1000人の飲酒運転防止インストラクターが、職場や地域で予防の基礎知識を伝えれば、飲酒運転防止だけでなく、生活習慣病などの原因となっている多量飲酒の抑制にもつながります。違反者・受刑者に伝えれば再犯防止につながります。

ASK飲酒運転防止インストラクターとは？

「飲酒運転防止インストラクター」とは、職場や地域での対応を心得た上で、DVDを使った参加型研修を実施し、アルコールの基礎知識や節酒の方法を広める人。

認定までの流れ

ステップ1 飲酒運転防止通信スクール【管理者コース】の受講

ステップ2 地区別<スクーリング>への参加

ステップ3 <実践報告シート>の提出

認定

DVDを使った講座の中身

【講座1】アルコールの「1単位」と体質

アルコールと体質/体質ごとの注意点/
アルコールの1単位と処理時間/3単位飲酒のリスク/
酒気帯びのケーススタディ/健康日本21

【講座2】「酔いの正体」と運転への影響

体内でのアルコールのゆくえ/酔いの段階と「脳のマヒ」/運転への影響/
微量でもこんな影響が/飲酒運転による事故

【講座3】「寝酒の落とし穴」と「節酒のコツ」

日本人と寝酒/寝酒の落とし穴/アルコールなしの安眠のためのアドバイス/
プロ運転手の節酒のコツ

【講座4】「アルコール依存症」の予防と早期発見

薬物としてのアルコール/依存症になりやすい飲み方/依存症の進行プロセス/
自己チェックCAGE/回復者からのメッセージ



認定までの流れ

【ステップ1】通信スクール

アルコールの基礎知識とともに、職場で飲酒運転を防止するために必要な対策を通信教育で身につけます。「講座1 飲酒が及ぼす影響」「講座2 ドライバーと職場が知っておくべきこと」「講座3 飲酒習慣を変える具体的ノウハウ」の3講座から構成され、それぞれ確認テストを提出すると、添削とともに「解答と解説」の資料が返送されます。確認テストはテキストを見ながら記入できます。3回の通信添削を60点以上をクリアして修了すると、地区別スクーリング参加資格が得られます。ASKでは1996年以来、さまざまな通信講座を実施しており、飲酒運転防止通信スクール【管理者コース】の開講は2006年です。

【ステップ2】スクーリング

10:00から17:00までの1日集中研修を全国10地区で開催します。第1期は9月～12月の間に19回実施しました。内容は、研修用DVD「アルコールの基礎知識」を使った参加型研修全メニューの体験。グループでの話し合いやケーススタディ(事例検討)など、すぐに使える内容です。参加者には全員、研修に使った「DVD」と活用マニュアル&配布用シートを無料で進呈します。スクーリングでは、目的を一にした異職種の方々が一堂に会します。出会いから情報交換や連携が進む可能性にも期待しています。

【ステップ3】実践報告シートの提出

職場や教育現場・地域などでDVDを用いた参加型研修を行ないます。その内容を実践報告シートに記入し、研修時の写真をつけて提出することで、飲酒運転防止インストラクターとして正式認定されます。研修の対象や形態、規模は問いません。

認定後

さまざまな機会をとらえて、身につけた知識や予防ノウハウを使い、飲酒運転防止活動を広げてください。ただしこの認定は、職場や教育機関での研修や地域でのボランティア活動に限定されています。講師料を授受する派遣講師になりたい人は、ASKに申請し、別途研修を受けて「上級インストラクター」になる必要があります。

■応募資格

- (1) 職場や教育機関・地域などで飲酒運転防止に取り組みたい方
 - (2) 養成講座のプログラムを期限内に修了する意志のある方
 - (3) パソコンとDVDの操作ができる方
- (1)～(3)を満たす方なら、どなたでも応募できる。

※職場等ですぐに研修を実施する立場にある方が優先されます。

募集人数は335人。全国を10地区に分け、おおまかに人数配分しています。

■受講料

自己負担は1万円のみ。日本損害保険協会から、教材一式(通信スクールテキスト・DVD・活用マニュアル&配布用シート)と地区別スクーリングに対して助成を受けているためです。

自己負担金は、通信添削および認定までの受講者管理業務等に当てられます。通信スクールを修了しないとスクーリング参加資格は得られず、DVDも入手できません。

第1期 中間報告

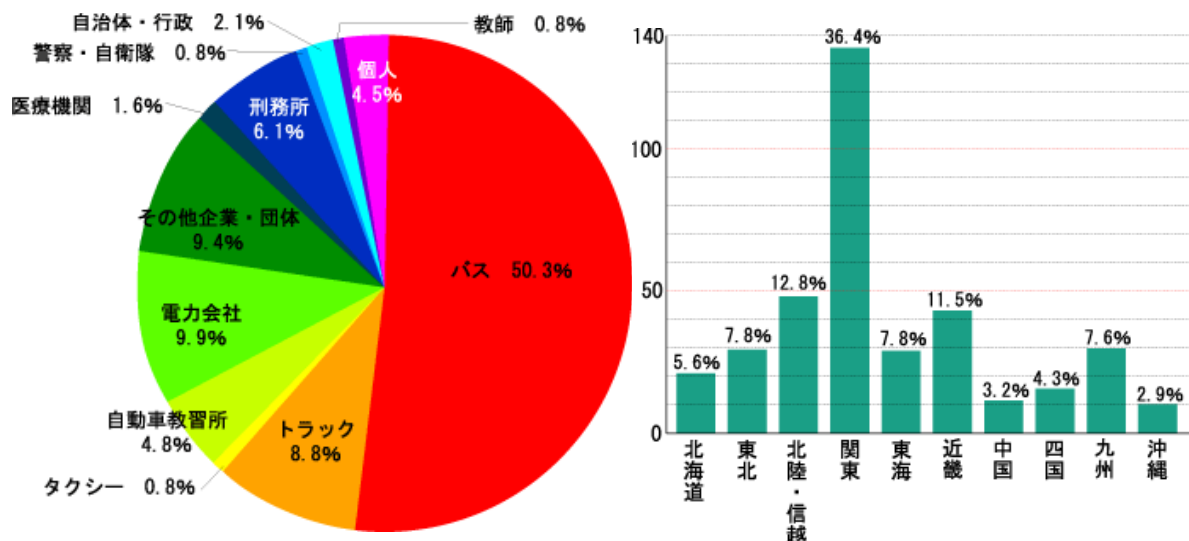
2008年4月1日、日本損害保険協会の助成を受けた第1期養成講座がスタート。関連4府省庁・7団体の後援を得ることができました。後援団体を中心に会員への周知を依頼。加えてサイトでの広報を行なったところ、5月16日時点で374名の応募があり、予定より早く募集を締め切りました。(当初の募集予定人数は335名でしたが、一定数の未修了者が出ることを予測し1割増に)

第1期生のプロフィールは下記のグラフのとおり。バスが多いのは、日本バス協会による徹底した周知協力があつたためです。

飲酒運転防止インストラクター養成事業

主催:ASK(飲酒運転対策特別委員会) 助成:日本損害保険協会
後援:内閣府/警察庁/国土交通省/厚生労働省/全日本交通安全協会/日本バス協会/全日本トラック協会/全国乗用自動車連合会/日本交通安全教育普及協会/全日本指定自動車教習所協会連合会/全国自動車運転教育協会

08年度 1期生(374名)の内訳



第1期生<応募の声>

【運輸関係】

- アルコール検知器導入に伴い、出勤点呼時のアルコールチェックを実施している。検出者に対するの教育、指導の必要性を痛感している。(バス)
- 運行管理を行ないながら、アルコールチェックなどを行っているが、毎日のことで形式的になっている。受講することでさらに意識づけができれば。(バス)
- アルコールの基本知識を学び、運転者の飲酒等の状況に対応し節酒の方法を指導するため。(バス)
- 運送会社の運行管理者としての責務を果たし、安全な運行を乗務員に指導するには、自分のスキルア

ップが必要と考え応募いたしました。(トラック)

●従業員に飲酒運転は絶対にやってはいけないと説明しておりますが、どこまで理解しているか！ もう一步踏み込む意味合いも含めてちょうどよい機会です。(トラック)

【司法・警察】

●受刑者に対する改善指導(酒害教育及び交通安全指導)や、職員への研修を実施します。(刑務官)

●当所で展開している「改善指導」に取り入れるために、私自身が勉強したい。受刑者の中には、アルコール依存・薬物依存の者も少なくなく、彼らの更生と再犯防止に役立てたい。(医療刑務所刑務官)

●当刑務所には、飲酒運転による事故等で受刑している者も含まれており、指導プログラムをもっと充実させるため応募しました。(刑務所教育部)

●職業柄、地域居住者の集まる所に出向くことが多く、その都度、交通安全や防犯について話す機会があることから応募しました。(警察官)

【自動車教習所】

●飲酒運転の危険性を本当に理解している人は、私自身を含めて少ないのではと考えています。この機会にぜひ勉強し、その知識を、初心運転者教育や一般企業向けの講習会などで生かしたいと思います。

●「飲酒運転はしてはいけない。危険である」ということは皆知っていることですが、アルコールは人体に、運転に、どんな影響を及ぼすのか、正しく知っている人は少ないと思います。私も以前から勉強したいと思いましたが機会がありませんでした。車を運転する地域の方々、企業の方々、教習生、職場の同僚などに飲酒運転の危険やアルコールの正しい知識を伝えたいと考えています。

●ドライバー教育の一環として、アルコールが運転に及ぼす影響を自分なりに調べてきましたが、体系的に勉強したことはありませんでした。これを機に、専門的な知識を身に付けてみたい。(交通心理士)

【一般企業】

●従業員送迎用のバスドライバーと社用車を使用する従業員への教育をしたい。(安全衛生管理者)

●精度の高いアルコール検知器を導入予定なのですが、合わせて飲酒のカウンセリングも行なっていきたい。(安全運転管理者)

●説得力のある専門的知識を身につけ、全社員の意識の底上げと徹底を図りたい。(安全運転管理者)

●「飲んでも、事故や問題を起こさなければ大丈夫」というように、アルコールに対する知識不足から事故・問題は起こっていると思われるので、職場で教育する立場として正しい知識を身につけたい。(総務)

●車メーカーの飲酒運転防止対策のまとめ役を担っております。飲酒及び飲酒運転防止の正しい知識を見につけ、役立てたいと思います。(自動車メーカー管理職)

●アルコールインターロックを販売する会社を経営しているため。(経営者)

●ASKのDVDを見て、二日酔いに対する認識の甘さを痛感しました。検知器を導入してからも、二日酔いで平気でトラックに乗り込む者が多い。つまり、酒に対する認識が甘すぎるのが現状です。私が勉強することで、少しでも社会に貢献できればと思い応募します。(安全運転管理者)

●各地域の放送局で研修を行ないます。(放送局人事総務局)

【行政等】

●職員の健康支援の中で、職場におけるアルコール対策に取り組む予定。(自治体総務部)

●行政機関において飲酒運転対策がすすめられているが、各部署において、アルコールについての正しい知識はまだ十分に周知徹底されていないと感じる。まずは正しい知識を身につけ、行政内の必要な部署や地域での教育を実施することで、問題の予防や回復を目指す職場づくりを推進したい。(自治体)

●精神保健福祉センター業務の一環として、アルコール対策の切り口として、今関心の高い「飲酒運転防止」の方から働きかけたいと思っている。各職域や地域におけるキーパーソンとなる方への働きかけの

重要性を感じているので、新しい知識と効果的な手法等を身につけて実践に移していきたい。(保健師)

●飲酒運転防止を切り口に、県民にアルコール予防教育を推進したい。生活習慣病対策にも同時に取り組みたい。(保健師・精神保健福祉士)

●アルコール対策を実施していくうえで、早期介入の難しさを感じています。飲酒運転防止対策を学ぶことで、具体的な介入のあり方、適正飲酒についての普及啓発についての技術を学びたい。(保健師)

●定時制高校の保健室に勤務している養護教諭です。生徒は卒業後、運転免許取得。就職に伴い宴席への参加を経験します。学校にいる間に正しい知識を伝えたいと思います。(養護教諭)

【団体等】

●免許更新時講習の講習担当者として役に立ちたい。(地区交通安全職員)

●安全運転管理者の法定講習の場で飲酒運転防止教育を実施したい。(地域団体職員)

●年間100回ほど全国の取引先企業に対して安全運転研修会を実施しているが、最近飲酒運転防止の研修要請が増加しているため。(安全運転研修会講師)

【その他】

●飲酒運転事故を起こした患者への教育のため。(救急救命センター医師)

●アルコール依存症の専門治療に関わっているソーシャルワーカーですが、市町村等々の依頼を受けて地域住民への啓発啓蒙に参画する場面も少なからずあります。依存症予備群を含む関連問題としての飲酒運転防止もまた喫緊の課題と認識しています。この点に関して豊富な知識と技術を持つASKによる養成講座に期待しています。(精神保健福祉士)

●勤務先の病院にも、最近は職場から飲酒運転等の注意指摘を受けた方々や、プレアルコホリックスの相談受診が増え、そういった方たちを対象に飲酒運転教育プログラムを実施したい。(精神保健福祉士)

●私が勤務するカーショップは、年に3~4回ほどサーキットを貸し切りでの「走行会」を主催しています。サーキット走行前にドライバーズミーティングがあり、その時に飲酒運転のセミナーを是非開催したいです。走行するには、ミーティングへの参加が義務づけられていますので、ほとんどが飲酒運転のセミナーを受講することになります。若い世代の人たちに伝えていきたいと思います。(カーショップ・マネージャー)

●業務として運送事業の申請をする際に、業者に申請内容および道路運送法の説明をしています。あわせて飲酒運転防止の講義をすることは効果的であると思います。(行政書士)

●アルコール依存症で断酒歴は12年になります。飲酒事故を起こしました。自分のような経験をしてほしくないの、体験談をまじえて地域貢献していきたい。(依存症回復者)

●自分はアルコールで苦しみ、人に迷惑をかけ、飲酒運転でつかまったこともあります。断酒会に入会して55歳で断酒。飲まないことがどんなに素晴らしいか、自分の体験を通して伝えたい。(依存症回復者)

●夫が飲酒運転常習者で毎晩気が気でなかった。幸い事故になることはなくその後断酒したが、家族の立場で考えた時、いつ家庭崩壊(飲酒運転による事故を起こして)になってもおかしくなかったと思う。飲酒運転防止を広く世の中に働きかけていかなければいけないと思った。(依存症者の家族)

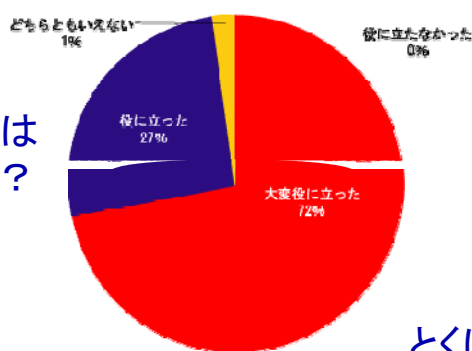
●教師・PTA・子供会等身近な地域から始めたい。違反者を排除するだけでなく、教育治療への参加促進を。(主婦・依存症者の家族)

【ステップ1】 通信スクール

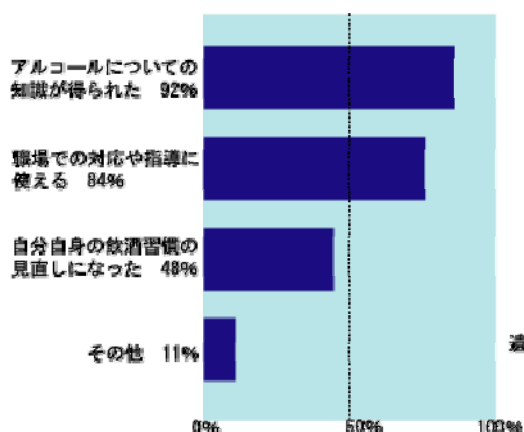
374名中337名(90%)が規定をクリアして通信スクールを修了しました(未修了の理由は、異動・退職・多

忙など)。修了後のアンケートは以下のとおりです(回収率 42%)。

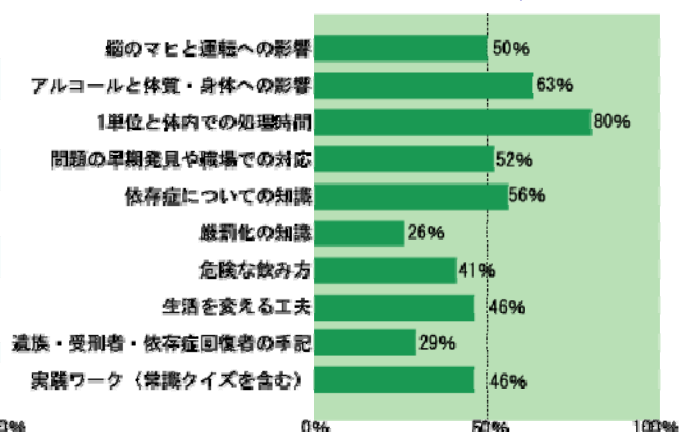
この通信スクールは役に立ちましたか？



どういうふうに役に立ちましたか？



とくに役に立ったと思うものはなんですか？



<通信スクール修了者の声>

【運輸関係】

●飲酒習慣を変える具体的なノウハウを教えてくれるテキストは他にないため、大変参考になりました。事例を読んで飲酒問題の深刻さを実感できた。当社で過去に乗務前のアルコールチェックで問題を発生させたケースでは、朝食を抜いたり、勤務前日の飲酒について自分で会社に申告したことを守れないことがほとんどのため、生活を変える工夫について、現場での指導に活用したいと考えています。(バス)

●職場内には今まで、「8時間空けておけば大丈夫」という空気が蔓延していた。今回の通信教育を受講し、修得した知識をさまざまな機会に伝えていきたい。(バス)

●豊富な事例や職場で活用できるシートが多くあり、役立ちます。自己チェックができて、私の生活習慣も改善できました。添削はわかりやすく丁寧で、誤字も直していただきました。飲酒運転の予防は、3つの大切なものを守ること＝(1)命を守る(2)ドライバーの生活と健康を守る(3)職場を守る。まさしく、飲酒運転事故の発生は経営を危うくします。この知識を職場に活かします。(バス)

●わかりやすい言葉・表現で構成された教材であり、堅苦しくなくすんなり入り込めた。自分も固定観念にとらわれており、間違った認識が多くあることがわかり、ためになった。飲酒量を減らすのは家族の協力なしでは達成できないと、あらためて認識しました。(バス)

●活字が大きいうえに内容がわかりやすい。また、講座ごとに自己診断ができる。確認テストはたいへんだったが、理解度が上がった。赤ペン修正で再確認でき大変よかった。(バス)

●ただ飲むなど指導するだけでなく、アルコールが身体に与える影響、依存症について、生活破壊、健康破壊を強調して指導していきたい。(バス)

●クイズは職場内でやってみるとおもしろい反応がありました。厳罰化だけでは飲酒運転は防げません。当社には厳しい規則があり、ドライバーは毎日アルコールチェックを受けて、本社で集中管理していますが、毎日数人の検知者があります。その指導に、学んだことを活かしたいと思っています。(バス)

●気づいたことや考えたことなど記入する内容がよい。考えを整理できる。返信のコメントが楽しみでした。特に【講座 1】飲酒が及ぼす影響の中の、「昔の常識は通用しない」が大変勉強になり、自分自身がアルコールに対しての意識が変わり、目が覚めた思いです！(トラック)

●大変親切な添削であり、感謝しています。社内の安全衛生推進委員連絡会議に、全店所から推進委員が集まります。その会議の中で、アルコールと体質・身体への影響と1単位と体内での処理時間を中心にクイズを入れて30分程のレクチャーをすることにしています。(トラック)

【司法・警察等】

●添削で、的確なアドバイスを書いてくれるのがうれしかった。受刑者への改善指導プログラムで活かしたい。酒豪が多い職場なので全体の意識改善に役立てたい。(刑務所)

●自分の知識の確認にもなったし、知識をもとに深く考えられるようになりました。添削がとても丁寧で、返ってくるのが楽しみでした。交通の指導において、アルコール依存症、アルコールの処理時間、厳罰化の知識と常識クイズは、もうすでに活かした授業をさせていただいています。(刑務所)

●アルコールに対する自分の知識不足の反省に役に立った。依存症者には節酒ではなく、今までの生活を変える指導。つまり情報や知識を与えることにより、認知と行動を変えることにより、生活すべてを変える必要性、そして何より酒というものから縁を切る、つまり断酒の指導が必要であることに重点をおいて今後指導したい。(刑務所)

●解説がわかりやすく指導にあたる際の参考になった。飲酒による脳のマヒと運転への影響に力を入れて指導したい。また依存症者の話をじっくり聞き、酒で失うものについて知識を植えつけたい。(刑務所)

●わかりやすく、そして読みやすい教材で、飲酒問題についての認識を徐々に深めていく流れに感心しました。アルコールに問題を持つ人に偏見をもたなくなりました。受刑者の更生の一助となるよう活かし、加えて職員研修にも使用させていただきたいと思います。(刑務所)

●地域会合で受刑者の手記を紹介したところ、普段あまり耳にしないう内容だけに熱心に聞いてくれた。飲酒事故の事例をもう少し紹介してほしかった。そしてその事故の裁判結果(判決)も知りたい。(警察)

【自動車教習所】

●飲酒がどのように人体に影響し、運転に影響するかという知識を、職場でも教習や講習を通じて地域の方々や教習生にも伝えていきたいです。修了したらそれで終わりではなく、2回3回それ以上に勉強したり、新しい知識を得る機会がほしいです。とくに地方ではなかなか情報が入ってきません。

●生徒さんの中に飲酒運転で免許取消しになった方々が多くいられています。このような人々に少しでも飲酒のこわさを理解させることができれば、と思う。

●赤ペンのアドバイスはとてもうれしく勉強になりました。間違った指導をしていたことにも気がついた。飲酒の1単位と処理時間については徹底したい。深酒すれば、間違いなく朝は酔っている状態であることを理解させたい。飲酒運転(事故)はまさに殺人罪です。

●今後、指導や知識のポイントを抜粋したような、ハンディサイズのテキストができると携帯できてさらにうれしいです。自分の職場でまず報告を兼ねてプレゼンしたいと思います。

●事例が多く出ているので、より実際的なこととして理解しやすかった。確認テストでもう一度テキストを読み返す機会となり、何回もすみずみまで読み、学習効果が上ったと感ずる。久しぶりに学生気分を味わい、コメントを書いていただいたのでうれしく感じたり、はげみになった。内容が濃厚で充実しており、1万円の費用がとても安い受講料と感じました。

●依存症についての知識、とくに依存症に至るまでの過程が勉強になりました。周囲の認識不足も問題だと思いました。「意志が弱い」とか「家族は何をしていたのか」と思いがちです。私もそのように思っていました。この講座を通して、それが誤りであったことを自覚しました。一番苦しんでいるのは本人であるし、その人を支えるためにも周囲の人がアルコールに対する正しい知識を身につけなくてはならないのです。そういった意味からとても有意義な内容でした。

【一般企業等】

●わかりやすいテキストで、ずっと残しておきたい一冊になりました。確認テストでは、わかっているようなことでも考えて書くことの難しさを感じました。アルコールについて、昔ながらの考え方を持っている人が今でもたくさんいます。「アルコールはなめるだけでもダメ」「人生もなめたらダメ」をスローガンとして進めてまいります。これから先インストラクターになられた方々がどのように活動されているのか知りたいです。

●通信講座の教本はステップごとに理解しやすく、私のような初心者でも、インストラクターとしての知識と自信をしっかりと得られた。自分の飲酒習慣のふり返りと、職場での勉強会に役立ちました。採点だけでなく、しっかりコメントを書いていただき、ありがとうございました。節酒、飲酒習慣を変える「行動計画シート」は、参加者全員に宣言してもらいたいと思います。

【その他】

●アルコール常識クイズは職場のコミュニケーションにつながりました。添削では、丁寧な解説をいただき再学習になりました。体内での処理時間を、各種アルコールに含まれる度数、量を知ったうえで頭に入れておきます。テキストの事例はどれも身近な問題なので活かしたい。(教師)

●学期ごとの打ち上げや情報交換会での宴会の設定、開始・終了時刻等を考えるようになった。飲酒してコミュニケーションという風土を少しずつ変えていっている。(教師)

●添削で、気のつかないところなどに加筆していただいたり、重要と思われるところに波線をいただいて、よりわかりやすかったです。会合での飲み会は主に「飲み放題」になりがちなので、歯止めに役立ちそう。運送事業者やその他会社でアルコールに対する指導ができそうです。(行政書士)

●取引先に対する研修会や講演会が主な業務ですが、飲酒の影響や恐ろしさについて、今まで以上に納得感のある講話にしていきたいと思う。依存症は、本人の自覚や努力、職場の協力・支援だけでは解決困難であり、専門的な医師やカウンセラーの治療が必要であることは大変参考になった。(損害保険)

【ステップ2】スクーリング

当初、10 地区 11 回を予定していましたが、地域配分が予定通りではなかったことと、参加者からさまざまな要望(曜日・場所など)が相次いだため、できるかぎりの便宜を図り、10 地区 19 回の開催としました。337名の通信スクール修了者のうち、335名が参加(未参加者は第2期に参加予定)。当養成講座開始前の通信スクール修了者のうち、希望者 5 名がスクーリングに参加、総数は 340 名となっています。

スクーリング参加状況

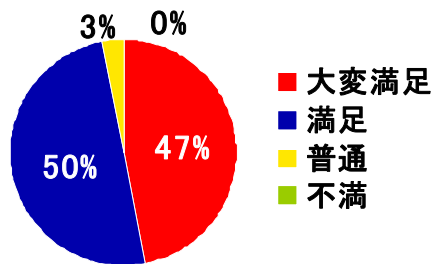
	バス	トラック	タクシー	教習所	電力	企業等	医療	警察司法	行政	教育	個人	合計
北海道 1 回	7	1		1		4	1	1			1	16
東北 1 回	14	4	1	3		2				1	2	27
信越北陸 1 回	11			1	35						1	48

関東 7回	65	21		3		18	1	4		1	7	120
東海 2回	17					3	1	1	3		1	26
近畿 2回	27	3		3		1		7	1		1	43
中国 1回	6					2	1	2		1	1	13
四国 1回	10			1				4				15
九州 1回	13	2		2		1	1	3	3			25
沖縄 1回	2		1	1				2			1	7
合計	172	31	2	15	35	31	5	24	7	3	15	340

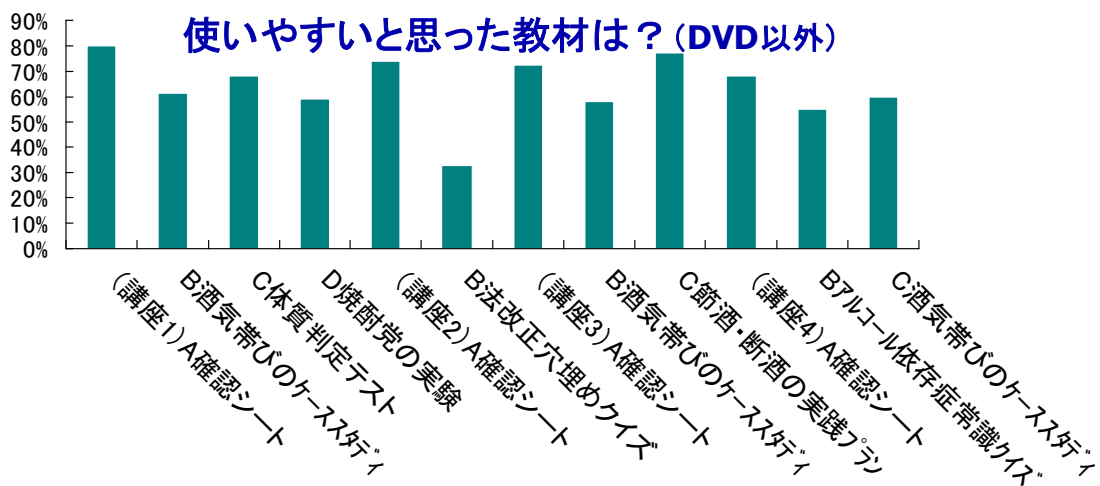
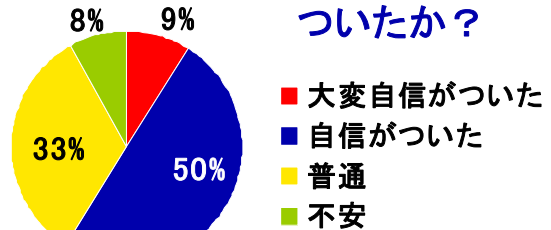
9月(5回) 八王子2回・船橋2回・川崎
 10月(7回) 三島・大阪・神戸・長野2回・名古屋・広島
 11月(4回) 札幌・仙台・高松・那覇
 12月(3回) 福岡・東京2回

修了後のアンケートは以下のとおりです(回収率 85%)。

プログラムの内容について



インストラクターとして自信が ついたか？



<スクーリング修了者の声>

【運輸関係】

●アルコールの単位と、体質からアルコール依存症の予防と早期発見までの内容に共感もてた。DVDを使用している講座やグループワークで発表等とてもわかりやすくて楽しかったので、今後も修了者に対し年に1回もしくは2回講習があるといいなと思いました。(バス)

- グループワーク等で他の方の意見や考えがわかり、自分との違いなどとても勉強になりました。(バス)
- 講師に人間味があり、聞いている人の気持ちをつかんでいただき楽しかった。自分が同じことはできないけれど、聞いている人のためになることを生きがいに話します。(バス)
- 限られた時間でこれだけのカリキュラムを消化していただき満足しています。自らの経験を含め、事例による説明が非常にわかりやすかった。研修を開催する際の幅が広がった。(バス)
- 1 単位飲酒の根拠をもう少し深く知りたい。自分が酒飲みだから、後は自覚の問題。(バス)
- 飲んですぐ運転することと、翌日でもアルコールが残った状態で運転することとは同じことだという言葉が印象的です。このことを運転手全員に知らせたいと思いました。(バス)
- 自分が受講する立場で受け、どういった疑問を持つかなど客観的に考えることができた。ところどころでインストラクターとしてのポイントを教えていただけたのでよかった。確認シートで確認できることによって知識を定着できる気がしました。(トラック)
- 実践でのとり組みを考えています。60分でできると理想。45分の場合、グループでの教育は難しく思えた。グループワークを考えると90～120分は必要かも。あとは経験あるのみ。(トラック)

【司法】

- 実際に指導を行なう上での、イメージを持つことができた。(刑務所)
- 実践不足が不安ですが、「やろう」という意欲は高まりました。講師の熱意を感じ、まずは人としてのハートが大切であると思いました。(刑務所)
- 実践する際、参加者個人のプライベート開示を迫ることになるのかがやや心配。節酒・禁酒に向けさせる動機づけのための手法についてより詳しくご教示いただけるとさらに有効だと感じました。(刑務所)

【自動車教習所】

- 質問によく答えてくださり、ありがとうございました。
- ただ単に知識だけでなく、実践的に教えてくれたので、今後指導する上で大変わかりやすかった。

【一般企業】

- 飲酒を考えるうえでスペシャリストの講習が受講できて自分の力になります。職場の仲間に対して今回の研修のようにきちんと講義できるかが不安です。(営業所で予定されているため)
- 一人では心配な面があるが身近に仲間がいることは心強い。会社全体で進めなければならない。

【行政】

- 講座ごとにグループワークが入り、参加者の意見の相互作用によって内容が深まったと感じた。実践プランにいたるまでに「飲みすぎたときは」「節酒の工夫」のグループワークが効果的だった。日頃研修や啓発の機会があり、実際にやっていますが、アルコール関連問題は否認も多くあるので、実践プランに本音がきちんと引き出せるかが不安です。交通局の人やバス会社の人が多く参加されており、現実に職場の問題であることを痛感しました。(保健師)
- グループワークがあり楽しく学ぶことができた。研修等で組み合わせることもできそうで参考になった。市としての取り組みにこういった「アルコール教育」がとり入れられるよう努力します。(行政)

【その他】

- 医療以外の視点でアルコールを考えることができた。実話に基づいた講師の話はわかりやすく、一つ一つ納得して聞くことができた。実践で使えるケーススタディはためになった。(精神病院)
- これまでの飲酒方法のまちがった飲み方をすぐにはかえられないかもしれませんが、大切なことなので、自分自身も研鑽をつづけていかなければならないと思います。(小学校教師)

【ステップ3】 実践報告シート

3月末までの第1期認定に向けて、受講生は初回研修を実施し、実践報告シートを提出します。

1月22日現在で認定インストラクターの数は87名。この87名が認定のために実施した初回研修の対象人数を足すと、2941名になります。アルコールの基礎知識は草の根で全国に広まっています。

熱心に報告を寄せた運輸会社勤務のKさんの実践報告から一部をご紹介します。Kさんは社内での安全大会でトラック乗務員28名を対象にDVDを用いて初回研修を実施しました。

今回は初めてのため、14名ずつ2班に分けて研修しました。

まずは、基本のアルコールの1単位や実際に起きた酒気帯び事例について話しました。

全員がトラック乗務員であり、飲酒運転の危険性はよくわかっていました。ただし、前の晩に飲酒した量がゼロになるまでに思ったより時間がかかることは知られていませんでした。研修によってそのことを理解してもらえ、「今日から飲む量を減らします」などの意見も出ました。

安全大会のあとに定年者の送別会がありました。私は幹事のため世話役をしたので、1単位も飲みませんでした。ところが乗務員の中にもビール1杯だけの人だったので、「なぜ飲まないの？」と聞くと、「分解に1単位4時間かかるので、明日仕事がある自分は、この1杯でやめておきます！」と答えました。いつも立てないほど飲んでいた人が、このようなことを言うようになって、びっくりしました。

当然、次の日仕事の人への無理な酒注ぎは無く、きっちり2時間の送別会でした。

運転が職業の私たちですので、定期的に研修を開き、全講座を学習し、飲酒運転防止に努めてまいります。このたびは、素晴らしい養成講座をありがとうございました。

実践報告例

立場が違う受講生の報告書から、初回研修の対象者と人数、効果などを抜粋

実施者・場所等	受講対象者	人数	効果
バス会社	バス乗務員・運行管理者	15名	簡単に3単位くらいの量は飲んでしまう危険性があることを改めて理解したようだった。
電力会社	事業所従業員	90名	「アルコールの1単位を意識することが大切だと理解できた。」 「飲酒習慣を見直す良い機会になった。」等、飲酒運転の未然防止につながるような声が多く聞かれた。
教頭	教職員・管理職	35名	グループでの話し合い活動では、日頃の自分の飲酒スタイルを振り返ることができ、良い交流ができた。
損害保険会社	家電の修理サービス業者	31名	アルコールの運転に与える影響や恐ろしさについて、よく説明できた。
保健師・精神保健福祉相談員	精神保健福祉相談員	29名	参加者の中には「何をいまさら…」という人も少しあったが、一方では基礎的なことが再確認できて良かったと思うとの声もあった。専門職としていろいろな研修に参加しているが、この研修はスクーリングを含めとても役に立つ講座だった。
精神科医・県立医療センター	職場のメンタルヘルスセミナー参加者		年間を通じて一般企業(各20～100人程度)に出前セミナーを実施する予定。講義とグループワーク、当事者からの体験発表のセットにするとインパクトが強いと思う。
運輸会社	社内安全大会参加のトラック乗務員	28名	前の晩に飲酒した量がゼロになるまで、思ったよりも時間がかかるものだと理解してもらえた。今日から飲む量を減らしますと

			の意見も出た。大会の後、定年者の送別会があり、いつも立てなくなるほど飲んでた乗務員が「明日仕事がある自分は、この1杯でやめておきます！」とビール1杯だけでやめていた。
刑務官	刑務所教育部職員	7名	実際に各自、日頃の飲酒状況で何単位になるか計算、翌日の車での出勤時に飲酒運転の可能性はないか考えさせた。故意でなくとも飲酒運転になるケースがあり、注意が必要なことを周知することができた。
刑務官	受刑者(交通事犯)	6名	アルコール依存症の正確な知識や予防と、早期発見に向けての知識をわかりやすく教えることができた。常識クイズの全問正解者はおらず、1つ1つ説明を興味深そうに聞いていた。

「ASK飲酒運転防止インストラクター養成講座」報道一覧

2008/3/12	北海道新聞※	北海道	社会面	『「飲んだら乗るな」指導員養成』 NPOが3年計画 道内含め1000人
2008/5/29	物流ニッポン※	専門紙	受講者取材	『飲酒運転撲滅へ指導 インストラクター講座に挑戦』
2008/10/13	物流Weekly※	専門紙	川崎でスクーリング取材 インターネットでも配信	『飲酒運転防止インストラクター 認定講座に人気集まる』
2008/11/26	NHK	沖縄県	昼のニュース	昼のローカルニュースでスクーリング実施の報道
2008/11/28	読売新聞	全国版	家庭欄 インターネットでも配信	『飲酒運転防止インストラクター飲み方、 やめ方「習慣」指導』
2008/12/12	内閣府広報番組	BS朝日	峰竜太のナッ得ニッポン インターネットでも配信	『もう誰も死なせないために — なくそう飲酒運転 —』
2008/12/17	福島民友新聞	福島県	社会面トップ インターネットでも配信	『増えるインストラクター 職場から飲酒運 転追放 事業所で関心、養成活発化』
2008/12/18	NHK	沖縄県	ハイサイニュース610	スクーリングの様子・スクーリングを受けた 刑務官・刑務所の様子
2008/12/22	ニッポン放送	ラジオ	上柳昌彦の お早うGood Day!	残り酒による飲酒運転の危険 実践的な知識の必要性
2008/12/28	産経新聞	全国版	インターネットでも配信	『飲酒運転防止 「飲みすぎ文化」転換を インストラクター養成 職場や地域で指導』